

報道関係者各位
内閣記者会
文部科学記者会
厚生労働記者会
京都府政記者クラブ
京都市政記者クラブ
京都経済記者クラブ
日本外国特派員協会
フォーリンプレスセンター

2005年9月13日(日本時間午後1時リリース)

2005年9月13日
STS フォーラム実行委員会

科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム 「STS フォーラム」第2回年次総会報告

科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム「STSフォーラム」第2回年次総会が、「科学技術、その光と影ー持続可能な未来のために」をテーマに、2005年9月11日から13日まで京都で開催された。世界68の国と地域から、約500名の科学者・研究者(ノーベル賞受賞者10名と学長22名を含む)、政治家(大臣17名を含む)、経済人及びオピニオン・リーダーが一堂に会した。

皇太子殿下が開会式にご出席され、本フォーラムの目的に対してご支持を表明された。

小泉純一郎総理大臣は、科学技術を用いて人類の将来の繁栄を確たるものとするのが重要であると述べた。

尾身幸次 STS フォーラム実行委員長は、閉会式でフォーラム声明を発表し、科学技術の光と影に関し、人類の将来を見据えた活発な意見交換が行われたと締め括った。続けて主な論点について次のとおり述べた。

「第一に、人類の持続可能な発展への鍵は環境との調和にあり、また将来に向け、核融合推進のための投資は必要不可欠であるとの共通認識を持つに至った。

第二に、すべての国において等しく競合できるような、生命倫理に関する世界共通ルールの構築が重要であると認識された。

第三に、情報通信技術、ICT の更なる進展が人類の将来の繁栄をもたらすものであるとの点で意見が一致し、デジタル・デバイドの解消は人類にとって共通の利益となり得ることを認識した。

第四に、性別や人種や国籍によらず全世界の人々が教育を受けられる機会を設けることが我々の将来にとって不可欠であるとの点で合意した。

第五に、科学技術を利用したテロ防止の手段の開発の必要性についても共通の認識に至った。また、エイズのような感染症に対するワクチンや医療手段の開発が人類の将来にとって不可欠であるとの認識を得た。

第六に、開発援助に関しては、我々の多くが人材育成とともに科学技術にかかる支援が重要であるとの認識を持った。」

さらに、あらゆる立場の人々が、科学技術の問題を自分自身の問題として考えることが重要であり、また、科学技術の光と影の両面が人類に多大な影響を与えうるという認識のもと、科学技術が人類をコントロールするのではなく、人類が科学技術をコントロールすべきであるとの点で合意したと述べた。

「STSフォーラム」第3回年次総会は、2006年9月10日から12日まで京都で開催される。

STSフォーラム評議会は、本フォーラムを運営するための非営利団体を設立することを決めた。理事長には尾身幸次実行委員長が選出され、理事にはジェローム・フリードマン マサチューセッツ工科大学教授やフィリップ・デマレスコー バイオビジョン、リヨン科学財団会長など主要なメンバーが就任した。

お問合せ先:

プレスセンター(京都国際会館内) 9月13日 14:00 まで

事務局長: 芹澤 ゆう

広報担当: 京(ミヤコ) 希伊子(090-4543-3336)、森田 碧

Tel. (075)705-2058 e-mail: press@stsforum.org

STSフォーラム事務局(東京)

Tel. (03) 3519-3351 Fax (03) 3519-3352

添付資料: フォーラム声明